

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が理念のままにならないよう、折に触れ実践につなげている。	事業所理念を毎月の定例会で確認している。日々のサービス提供場面で、職員が常に立ち戻る根本的な指針となっており、実践につなげている様子を垣間見ることができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	福祉体験学習の受け入れ、高校生のボランティア等積極的に受け入れながら、地域に情報発信している。	ホーム所在地は二つの区にまたがっている。建物付近の道は散歩コースにもなっているため、立ち寄る地域住民も多く、施設の内容や様子を聞かれることもある。ボランティアの高校生や職場体験の中学生の来訪があり、ハローワークからの再就職支援のための実習などの受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会等をとうして地域に情報を送っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議終了後の職員会において報告や話し合いをおこなっている。	運営推進会議は定期的開催されている。家族会正副会長、区長、区長会長、介護相談員、ボランティア、地域包括支援センター・広域連合職員等が出席している。事前に資料を配布し当日に質問をしていただけるように工夫もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地区北部保健福祉サービスセンターとの連携により必要な情報を受け又、事業所の実情やサービスの取り組みを積極的に伝え指導を受けている	介護認定の調査は市保健福祉センターの担当職員がホームに訪れ、家族立会いのもとで行われている。市招集のケアマネージャー会議にも積極的に参加し、各事業所との情報交換や地域との連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての講習会等をおとして、良く理解している。	身体拘束をしないケアについて管理者・職員は正しく理解している。また、利用時には家族等にも説明がされている。徘徊傾向の利用者については見守りや声掛けで対応し、時には気分転換のためドライブに出掛けることもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具対的な演習等を行って良く理解している		

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会等を行いながら理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、改定時に、納得いくまで話し合いを行い理解していただいている。		
10	(6)	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会をとうして意見等を聴き又個々に要望等をお聞きしている。	家族会は年1回開催され、利用者本人と一緒に体操等をしたり、職員と交流する中で意見や要望を聞き取っている。高齢化が進む中で自分の意見等を直接的に言うことが出来る利用者も少なくなりつつあり、思いや意思を伝えられない方には寄り添い、時間をかけて聴くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や代表等との懇親会をとうして意見を聴く機会をもっている。	職員会議は毎月8日に開かれ、個々に面談も行われ、要望や意見を聴く良い機会となっている。会議は内部研修やモニタリングなど、多様な内容が含まれ、研修や勉強後にはテストをし、理解度を測ることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	終末期意向確認書及び事前指定書等により、家族との話し合いを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種国家試験等の金銭的援助また能力におおじた研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流が少ない中で、機会を設けて活動を支援している。		

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に最低3回位、施設を訪問して戴、その上で本人の要望をお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、納得いくまで話し合いを行い理解していただき、要望等をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めの段階で当ホームの全能力の範囲内かどうか確認し、場合によっては、他の施設等も紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを大切に本人に寄り添い暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の双方に頼られ、信頼される関係づくりをめざしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所をその人の宝として積極的に支援している。	来訪者の方の確認はあらかじめ家族から了解を得て行っている。自宅隣近所の方や幼なじみの方の来訪を受け入れ、居室で歓談している。職員も見守りながら支援している。お正月・お盆には外泊や日帰り帰省される利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両棟の交流は、常にいつでも行い仲の良い関係づくりに努めている。		

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、互いに連絡を取り合い懇親を深めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と時間をかけて話し合い、意向の把握に努めている。	利用者の生活歴や家族等からの聞き取り、日々の心身状態を把握し、思いや意向を言葉や表情から推し量っている。楽しみごとや役割の場面も本人本位に検討され、利用者が生き生きと生活できるよう支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から必要な情報を提供してもらい経過等の把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員研修会を行い一人ひとりの心身状況等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの見直しについての会議を行い介護支援専門員が必要な情報を報告し家族等からサインをもらっている。	申し送りや担当者会議でモニタリングをし話し合いを行っている。また、家族よりの意見や要望等も取り入れ定期的な見直しをし、利用者に状態変化が見られた時には随時計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日朝、夕、職員会で情報を共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な範囲内でリハビリ等を行っている。		

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者本人、家族等の意向を踏まえ他の施設への転換も図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が、かかりつけ医をどうして協力医との話し合いにのぞみ納得の上で信頼関係構築に努力している。	職員の中に准看護師が在籍しているため、医療機関との連携も適確に取り組むことが出来ている。また、かかりつけ医への定期受診は家族が利用者の状態を把握する大切な機会であるので、原則的には家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師、協力医に必要なに応じて情報を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、ケースワーカー等との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期意向確認書及び事前指定書等により、家族との話し合いを行っている。	利用契約時には重度化した場合等について家族に十分説明がされており、看取りなどの現実に遭遇した場合に医師との連携も取り家族と相談している。状態の変化に合わせてその都度意志を確認しながら見極めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	広域消防による応急手当講習会や、協力医による初期対応についての勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域消防署等との連携を図り、訓練等を行っている。	代表者の意向で利用者、家族、職員等に訓練の日時を伝えずに突発的に避難訓練を行うこともある。いかに緊急時に備えることが出来るかを実践しており万全を期している。自治会等にも、緊急時の応援についてお願いをしている。	

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには必要以上の注意を行い、誇りやプライバシーを損ねないように心掛けている。	耳の遠い方には耳元で相手がわかるようにはっきりと話しかけている。職員は利用者一人ひとりを尊重し、その人らしい尊厳ある姿を大切に言葉掛けや対応に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傍に寄り添い入居者本人じっくり時間をかけて話し合う機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく希望に沿うように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全職員が積極的に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が共同して楽しく関わっている。	半数以上の方が自立で介助なしで食事が出来る。食事準備や後片付けも出来る範囲でお手伝いをしていただいている。外食も買い物に出掛けたついでに行なっており、楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量を記憶し、個々に入居者の状況におおじて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔状況の確認をしている。		

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄時間を記録し、その中から各入居者のパターンを把握して、トイレでの排泄を促している。	排泄のパターンを職員は把握しており、早めの誘導でオムツなどに頼らないよう支援につとめている。また、散歩や外気に当たることで体調を整えられる効果も期待し積極的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	無理のない範囲内で運動への参加を促し、食事は栄養バランスを考えて提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった入浴日以外にも希望におおじて行っている。	高齢化に伴い、浴室の手すりを増設した。入浴日は曜日で決められているが、夏場や利用者の体調により臨機応変に対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の気持ちに寄り添って支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日確実に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や楽しみ事に協力した適切な仕事をやっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者本人の希望によって職員又は家族と、戸外に出かけている。	春の花見や秋の紅葉にはレンタカーを借りて名所へと出掛けている。また日々の暮らしのなかでは駐車上脇にあるウッドデッキにしゃれたパラソルを配置し、お茶を飲んだり食事をしたりして気分転換に努めている。	

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等に率先してつれて行き本人の好きな物等を買わせている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	代表が手紙づくりを積極的に行い又家族専用電話によりいつでも話が出る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活観、季節感は、随時取り入れている。	築10年を迎えようとしている建物ではあるが、行き届いた清掃の積み重ねで隅々まで清潔に保たれ、心地よい環境が整えられている。また、さりげなく壁面に利用者の作品が飾られていて、落ち着いた親しみの持てる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーやウッドデッキ等を設け、ゆっくり話し合いができる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力の下、本人の希望をとりいれている。	居室には備え付けのクローゼットと洗面台があり、使い勝手が良く考えられている。利用者の作品や写真が飾られ、一人ひとりがその人らしく過ごせるよう配慮されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立生活に向けて安全な環境を整備し工夫している。		